



HOKKAIDO  
UNIVERSITY

# 講義「人工知能」 第7回 AI関連ニュース

北海道大学大学院情報科学研究院  
情報理工学部門 複合情報工学分野  
調和系工学研究室 准教授 山下倫央

<http://harmo-lab.jp>  
[tomohisa@ist.hokudai.ac.jp](mailto:tomohisa@ist.hokudai.ac.jp)

2024年4月30日(火)

## ❖ クマ出没をAI検知へ 国や自治体、民間の監視カメラとAIつないだ検知システム構築

- <https://www.nikkansports.com/general/news/202404290000832.html>

- 2024年4月29日 日刊スポーツ

- 政府は、野生のクマによる人身被害の増加に対処するため、人工知能（AI）を使った検知システムの実証事業を近く開始する。

- 監視カメラの映像からクマ出没をAIで瞬時に判断し、情報を関係機関と共有する。システムの有効性を確認できれば、人家周辺でクマ出没が多い都道府県に導入したい考えだ。政府関係者が29日明らかにした。

## ❖ クマ出没をAI検知へ 国や自治体、民間の監視カメラとAIつないだ検知システム構築

- <https://www.nikkansports.com/general/news/202404290000832.html>

- 2024年4月29日 日刊スポーツ

- 政府は2月にクマ被害への対策方針を策定し<1>人の生活圏への侵入防止<2>発見時の緊急対応<3>住民への情報提供－を柱に据えた。特に、市街地に現れた際の早期覚知や、警察、自治体、地元猟友会などとの情報共有が課題となっている。

- そこで浮上したのが、国や自治体、民間の監視カメラと、画像から人や物を認識するAIをつないだ検知システムの構築だ。クマの発見を助け、速やかな警戒態勢につながれると期待する。

- ❖ 「AIが人間をロックし正確に狙う機関銃…」イスラエルが開発、パレスチナ難民キャンプに配備した
  - <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2022/10/ai-66.php>
  - 2022年10月21日 Newsweek
- <兵士の疲れや震えによる誤差を修正し、ターゲットを正確に撃ち抜くAI銃が試験配備。開発企業は、かえって人命を守ると強調するが.....>
- 緊張高まるイスラエルのヨルダン川西岸地区に、AIが照準をコントロールする銃が配備された。人間が引き金を引いてターゲットをロックすると、AIが自動で照準を補正し、目標を正確に狙撃する。
- 設置されたのはヨルダン川西岸のパレスチナ難民キャンプで、キャンプを見下ろす監視塔の上に2丁が配備されている。難民キャンプで暮らす19歳の青年は、ユーロニュースに対してこう語る。

## ❖ 生成AIで特定の人物を再現する技術開発進む

- <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240417/k10014422911000.html>

- 2024年4月17日 NHK

- 生成AIの活用が広がるなか、特定の人物の考え方や声などを再現する技術開発が進んでいます。
- 日立製作所のグループ会社は、生成AIを活用して特定の著名人の考え方を再現し、さまざまな相談などに回答する技術を開発しました。
- 一般的な生成AIは大量の知識や情報を学習し、特定の立場や考え方には偏らない汎用的な回答を行いますが、この技術では、著名人の著書などのデータに特化して学習しています。

## ❖ 「AIひろゆき」 GPT-4導入し再び生配信 今度は投げ銭OK 収益は“本物”に還元

- 2023年 4月11日

- <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2304/11/news124.html>

- AI音声合成サービスを提供するCoeFont（東京都港区）は4月11日、西村博之（ひろゆき）さんを模した「AIひろゆき」による生配信を再び実施すると発表した。
- AIがひろゆきさんのようなコメントを生成し、ひろゆきさんに似た音声合成で配信する。
- 新たにユーザーによる“投げ銭”を解禁し、収益をひろゆきさんにも分配するという。配信は13日の午後6時に始める。

## ❖ 生成AIで死者を“復活”させるビジネスは人を救うのか 指摘される懸念とは？

- <https://news.yahoo.co.jp/articles/6620f649731b397738de951cf744d146e2fe1c73?page=2>
- 2024年4月27日 ITmedia ビジネスオンライン
- 世界各国で生まれる「死者をAIで復活」サービス
- 中国発の「亡くなった人を復活」させるサービスは、米国でもすでに登場している。
- カリフォルニア州のストーリーファイル社では、亡くなった人とさまざまな対話ができるサービスを499ドルで提供。
- 実際に、大事な人を亡くして落ち込んでいる人たちの心の支えになっているケースも報告されている。
- こうした企業は米国でいくつも立ち上がっている。例えばある企業は、亡くなった女性の葬儀で、AIで復活させたその女性と参列者が対話できるサービスを提供した。

## ❖ 生成AIで死者を“復活”させるビジネスは人を救うのか 指摘される懸念とは？

- <https://news.yahoo.co.jp/articles/6620f649731b397738de951cf744d146e2fe1c73?page=2>
- 2024年4月27日 ITmedia ビジネスオンライン
- TBSの報道では、死者をAIで復活させるサービスを提供している中国人の男性が「私は今、人々を救っていると感じます。人々に精神的な安らぎをもたらしているのです。私の夢は、普通の人々がデジタルの力で『永遠に死なない』ことを実現することです」と述べている。
- 筆者もこの感覚は理解できるが、この考え方自体を疑問視する声もある。
- というのも、亡くなった人といつでも普段通りに対話できるようになることで、人の精神衛生に害を及ぼす可能性があるというのだ。
- 家族など大事な人が亡くなったとき、人はその悲しみを受け入れ、克服していく。そして自分の人生を前進させていく。
- AIで死者を復活させることに対して、「忘れるという行為は健康的である」と主張している報道もある。



## ❖ 生成AIで死者を“復活”させるビジネスは人を救うのか 指摘される懸念とは？

- <https://news.yahoo.co.jp/articles/6620f649731b397738de951cf744d146e2fe1c73?page=2>
- 2024年4月27日 ITmedia ビジネスオンライン
- 米国ではこうしたサービスが、心理学の研究対象にもなっている。
- コロラド大学のジェッド・R・ブルーベイカー教授らの研究では、こうしたサービスが死者の存命中に生成したコンテンツを反復するのではなく、新規コンテンツを生成する能力があることから、このようなサービスに使われるAIを「生成ゴースト」と呼んでいる。
- 生成ゴーストと対話を続けると、現実社会との関係に混乱が起きる可能性もあるとこの論文は警鐘を鳴らす。論文を引用すると、「例えば、生成ゴーストの広範な採用は、労働市場、対人関係、宗教組織など、現代社会の基礎を根本的に変える可能性があります」という。

- ❖ AIが「思ったほどすごくない」5つの理由...まだ問題だらけ、最も重要なのはCO2排出量!?
- [https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2\\_2.php](https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2_2.php)
- 2024年4月27日 Newsweek
- 『世界のニュースを日本人は何も知らない5——なんでもありの時代に暴れまわる人々』（谷本真由美・著、ワニブックスPLUS新書）の著者の名を聞いてまず思い出すのは、「めいろま」名義でのX（旧Twitter）への歯に衣着せぬポストである。

❖ AIが「思ったほどすごくない」5つの理由...まだ問題だらけ、最も重要なのはCO2排出量!?

- [https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2\\_2.php](https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2_2.php)

- 2024年4月27日 Newsweek

- データ入力ที่ไม่十分な分野では悲惨なことになる
- もっとも大切なことは、AIは学習と出力に莫大なエネルギーが必要だということです。AIには利点もありますが、エネルギー効率の観点でみると生産性を上げるとはいえません。この点はコンピュータがどのように動き、どの程度の電気を使うのかというハードウェアの知識がない人は気がつかないことです。（139ページより）

## ❖ AIが「思ったほどすごくない」5つの理由...まだ問題だらけ、最も重要なのはCO2排出量!?

- [https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2\\_2.php](https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2_2.php)
- 2024年4月27日 Newsweek
- データ入力ที่ไม่十分な分野では悲惨なことになる
- 二番目の問題は、「AIは偏見をもつ」ということです。AIの「訓練する」手間からもわかるように、データ入力ที่ไม่十分な分野ではAIは十分に機能しないどころか、誤った結果を出して悲惨なことになってしまうのです。（145ページより）
- 三番目の問題は、二番目の問題にも関係ありますが、入力されるデータが偏るので、情報量や網羅性も低くなる点です。（145ページより）

## ❖ AIが「思ったほどすごくない」 5つの理由...まだ問題だらけ、最も重要なのはCO2排出量!?

- [https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2\\_2.php](https://www.newsweekjapan.jp/stories/technology/2024/04/ai5co2_2.php)
- 2024年4月27日 Newsweek
- ChatGPTはなんとなくフレンドリーと思われがちだが
- 四番目に、いまのAIは文脈を読み取るとか、細かい微調整をすることが苦手です。AIの代表格のChatGPTはなんとなくフレンドリーで共感してくれる答えを出しそうに思われますが、微妙および複雑な感情の動きに対応できません。現状ではプロの作家やアニメーター、音楽家、セラピストの代わりになることがほぼできないのです。（146ページより）
- 五番目に、AIは研究者や技術者、起業家、作家や漫画家が求めている答えを出すことはできません。こういった「創造性が高い」業種の人々は「一般的な意見」や「大多数の意見」は求めています。彼らが求めているのはまったく異なる意見、これまでと違うこと、画期的なこと、これまで登場しなかったことです。（147ページより）